

平成 28 年度 施策評価表

作成年月日：平成 29 年 10 月 13 日

課・グループ名	町立病院
---------	------

施策名	①-a 地域医療の確保（診療体制の確保） 4-1-①-a		
-----	------------------------------	--	--

1. 施策の現状分析及び展開方向

政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	4. 健康的で自立した暮らしを支える保健福祉と医療の整ったまちづくり	(1) 充実した医療環境の確立	①-a 地域医療の確保（診療体制の確保）
①施策のねらいと展開方向	<p>●自治体病院等広域化・連携構想に基づき効率的な地域医療体制を図るため、札幌圏域の医療機関を中心に病院相互の連携強化と機能分担を進め、また診療体制を確保するための医師派遣や地域医療が抱える諸課題を解決するために近隣医療機関との連携・協体制度を推進します。</p> <p>●町外医療機関、特に江別市立病院との医療連携により医師の派遣や入院・外来患者数の増加や職員の資質向上の研修会・学習会を推進します。また、今後も医科大学との連携を図り救急医療体制を確保します。</p> <p>●病院経営改善計画推進のため、中心となる経営会議とともに新たに経営改善委員会を組織し各部門と連携しながら改善計画を推進します。また、医療環境の安全を確保する各種委員会、救急医療体制の強化のための医師等と救急救命士との連携を図ります。</p> <p>●一次医療機関として救急医療も含めた医療機能を維持するため、医師をはじめ医療スタッフの確保に努めます。</p> <p>●町内の児童生徒の各種健診や各企業・事業所等の職員健診の増加と手軽に受けられる健診事業を始めとした予防医療を行い、町民の健診の増加を図るとともに、保健・福祉・国保等関係機関との連携を促進し、町民の健診や在宅医療のセンター的役割を担います。</p> <p>●地域医療連携室を中心に他の医療機関との適切な役割分担と連携を充実させるため、的確で迅速な情報交換等や医療相談等を進めるとともにサービス調整会議等による保健福祉関係機関との連携を進めます。</p>		
②施策の現状と課題	<p>現 状</p> <p>●町内の医療機関は、国民健康保険町立南幌病院と民間医療法人の医院、歯科医院等があります。</p> <p>●札幌圏に接し、比較的近距离に総合病院、専門病院があるため、入院・外来ともに町内医療機関での受診者が減少傾向となっています。</p> <p>●診療科目は、町立病院では内科・外科・小児科（現在休診中）・眼科があり、民間医療法人の医院では内科、整形外科、リハビリテーション科、歯科があります。</p> <p>●医療機関の経営は、医療制度の改革や医療環境の変化などにより年々厳しくなっており、医師の確保についても困難な状況にあります。</p> <p>●札幌圏域自治体病院等広域化・連携構想検討会議江別地区部会の構成員として、行動計画により協力・連携を進めるとともに、江別市立病院・町立南幌病院医療連携会議により医療連携を進めています。</p> <p>●病院経営改善計画にもとづき、病院の体制の改革・患者数増加の取組みを行っています。</p>	<p>課 題</p> <p>●地域医療機関の確保については、江別市立病院等二次医療機関との連携体制や医科大学との連携を強化し、救急医療体制を含めた広域医療や診療体制の確保が必要です。</p> <p>●地域住民が安心して暮らせる医療環境を継続して提供するため、病院での医療の他、在宅医療などを進める病院体制の改革や患者ニーズに対応するための職員の資質向上を図ることが必要です。</p> <p>●町立病院は、国民健康保険直診病院として、また一次医療機関としての機能の充実と予防医療・在宅診療の促進に取り組むことが必要です。</p> <p>●地域の病院として、病院経営の安定化を図るために更なる財政の健全化を図るとともに、町民から、より信頼される病院となるため、病院経営改善計画に基づいた取組みや数値目標を定め、病院の健全経営を推進することが必要です。</p>	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況

① 成果指標	設定の意図	まちづくりの成果指標名	数値化
	・地域の医療機関として、必要な医療機能が発揮されているか、また、患者や家族のニーズに対応した医療サービスが提供されているかなど、病院の経営診断において基本的な数値となるための指標として設定している。	成果指標（総合計画・施策評価）	○ 可能
		A 町立病院 入院患者数（延べ）	不可能
		B 町立病院 外来患者数（延べ）	未計測
		代替指標 ※成果指標がない場合	指標の設定
	※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。		可能 不可能

②指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由
		H25	H26	H27			
A目標	人	16,425	16,790	16,425	17,012	17,012	前半は入院患者数は増加傾向にあったが、通年では目標を下回ることとなった。達成率は前年度より増加しており医療連携室を中心とした紹介逆紹介の効果が見られている。
A実績	人	15,272	14,445	12,292	13,062	13,062	
A達成率	%	93.0%	86.0%	74.8%	76.8%	76.8%	
B目標	人	21,438	20,580	21,168	23,088	23,088	平成28年度より外科医が不在のため、内科のみの診療となり、内科患者数は増加、外科患者数減少し、総数では減少となった。
B実績	人	17,250	18,289	17,998	15,566	15,566	
B達成率	%	80.5%	88.9%	85.0%	67.4%	67.4%	

評価視点	評価結果	理由、課題・問題点
③施策の達成状況	A 計画目標に向けて順調に推移（目標達成は十分に可能である）	<p>病床利用率は、一般病棟・療養病棟とも前年度を若干上回ったが、目標数値の達成には至っていない。今後、医療連携室による患者紹介・逆紹介が進んでいけば利用率の上昇が見込まれる。</p>
	B 計画目標に向けて概ね順調に推移（目標達成は可能である）	
	C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）	
	D 計画目標に向けての進捗は遅れている（目標達成は難しい）	
	施策の達成度	
	C	

3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類	【必要性】事務事業の必要性	【妥当性】町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施設)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

①事務事業評価結果

事業番号	事務事業名	種類	所管課名	成果指標	評価年度(H28)		事務事業の内容	必要性	妥当性	事務事業評価結果(方向性)	事業費(千円)		施策への貢献度 <高い> <普通> <低い>	
					目標	実績					単位	H28実績		H29予算
1	地域医療事業	(1)	町立病院	①HPアクセス件数 ②入院・外来患者延人数	①6,000	②17,012 外来23,088	①件 ②人	ホームページのリニューアルと病院情報誌の定期的な発行により、常に新しい町立病院の医療情報を積極的に提供する。町立病院の最新情報を提供する手段として、町立病院ダイアリーを立ち上げコンスタントに更新し、町民に親しみの持てる情報を提供する。	Ⅱ	Ⅰ	1 現状のまま継続	0	普通	
					①8,701	②13,062 外来15,566						①件 ②人		0
2	広域連携による診療体制の充実事業	(1)	町立病院	①患者の移送回数 ②連携事業の実施数	①80	②35	①回 ②人	江別市立病院等町外の医療機関との医療連携を推進し、住民ニーズに対応した診療体制の充実を図るため、札幌圏域自治体病院等広域化・連携構想検討会議江別地区部会への参加や江別・南空知4町医療連携協議会での検討協議を進め江別市立病院との医療連携を更に強化し医療機能の充実を図る。	Ⅱ	Ⅰ	1 現状のまま継続	50,710	高い	
					①67	②164	①回 ②人					56,434		
3	地域連携による医療・保健・福祉事業	(1)	町立病院	①在宅診療回数 《検査・健診等人数》 ②特定健診 ③人間ドック ④ちょこっと健診	①24	②100	①回 ②人 ③人 ④人	町内の保健福祉等関係機関との連携による入退院連絡会議等を開催し、在宅医療や予防医療、訪問看護等を推進して、地域医療の中核的役割として健診事業等の取組体制を整備する。	Ⅱ	Ⅰ	1 現状のまま継続	0	普通	
					①130	②115 ③30 ④15						①回 ②人 ③人 ④人		0

年度別施策全体の事業費合計(千円)	
H28事業費	50,710
H29予算	56,434

②H29に実施した新規事務事業

	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H29予算(千円)
1					
2					
3					

評価視点	評価結果	理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	地域住民が安心して暮らせる医療環境を提供し続けるため上記事務事業の推進は必須である。 入院患者数の増加のためには、医療連携室を中心とした活動が重要であり、在宅診療については今後さらに必要度が増えると思われる。 また、引き続き町民の健康管理のための特定健診・人間ドック及びがん検診も行き、同時に病院の活動を広く知ってもらうための情報提供も行っていく。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)	
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)	
		B

4. 今後の方向性 ※外部評価(行政評価委員会)

①総合評価 (今後の展開、事業の見直し等) 委員会評価	特に課題とすべき指摘事項はない。	事業の方向性 優先度 A~D (ランク)	事業番号				平成29年度以降の予算の方向性
			A				
			B				
			C	1	2	3	
			D				
						拡大	
						○維持	
						縮小	